

1. 堰堤附近。左端拱堰堤は第2假締切。其の上部は取水口（之の奥に續いて沈砂池あり）堰堤下流タワー附近はミキシング・プラント。

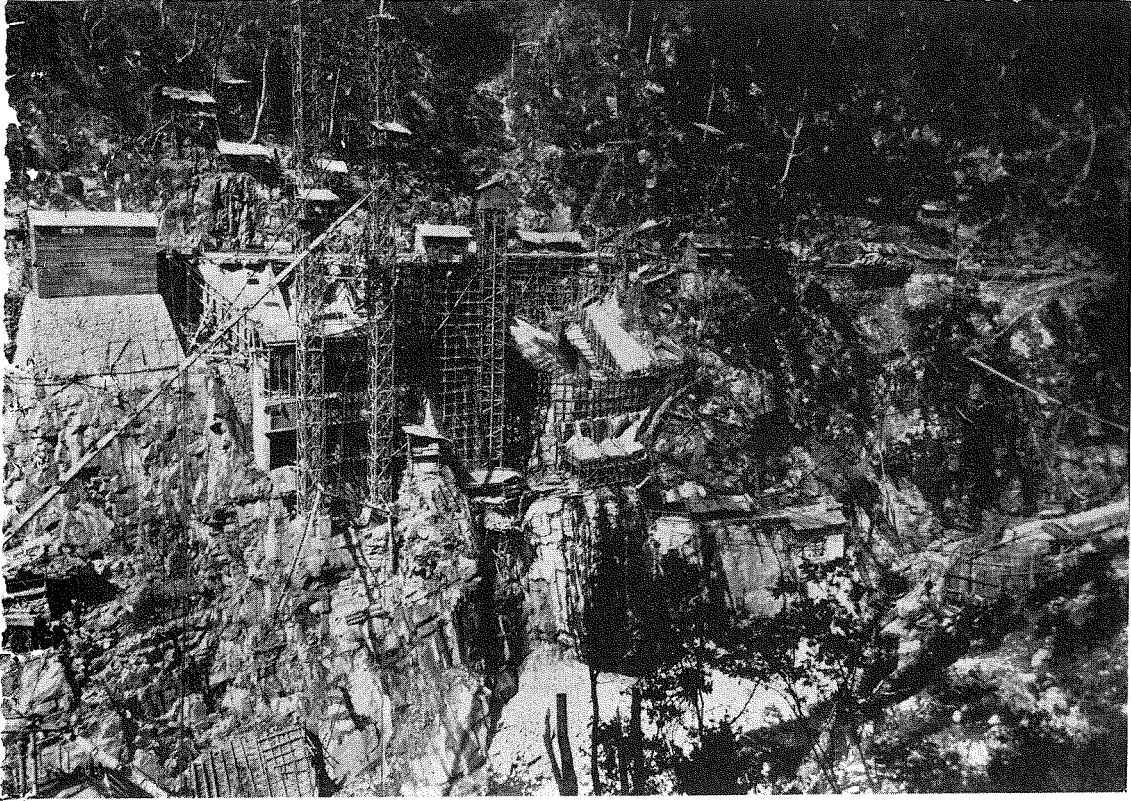
黒部の發電工事

日本電力株式会社取締役土木部長

齋藤孝二郎

1. 序

黒部川筋の發電工事に就ては現在識者間に餘りにも膾炙せられてゐる。其藏する大電源は河川勾配の急、降水量の多量、積雪に依る水の自然調節と相俟つて愈々經濟的價値を高められてゐることは言を俟たぬが、之が十數年前まで人跡未踏と稱せられた黒部の現在の姿かと思ふと轉た感慨に堪へない。同時に其の



裏に秘められた當事者の苦心は筆舌に盡し難いものがあるが、黒部川の特異性就中、地形の急峻、積雪、崩雪等は峡谷を溯ると共に甚しさを加へ、随つて現在工事中の第三號區域は既設第一第二に比し其の影響著しく随つて施工上、設計上にも特別の工夫を要した。筆者が十數年前第一號工事を先づ以て黒部川筋に手を初めた頃には、第三號の工事の如きは吾々の時代に實現しようとは豫想もしなかつたし、第三號の計畫工法の如きも凡て第一第二の難工事を經驗した賜による外はない。固より、設計施工共黒部と云ふ特異地域に順應し、第一第二と共に一脈相通ずるものあるは當然の次第で、黒部第三號を知る爲には先づ以て黒部川全般の特異性、延ひては第一第二等過去の歴史を知る必要のある事は言を俟たないが、之れ等については機會ある毎に雑誌其他にも發表してゐるので、ここには冗長を避けて現在工事中の第三號のみの特異性につき其の主要點を述べ寫眞説明に代へたいと思ふ。

時恰も當社の創立二十周年記念日に當り此の稿を草す。黒部開發の往年が偲ばれて感慨實に新たなるを禁じ得ない。